

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン『養成施設は、自らの教員資格及び教育内容等について、様式3により自己点検、自己評価及びその結果の公表を毎年度行うこと。』に基づく自己評価書（令和4年度）

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科数の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人当たりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部作業療法	4人	3人	2人	5人	15人	6人	14人	0人	5人	11.4人	
計	4人	3人	2人	5人	15人	6人	14人	0人	5人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤	基礎生物学	15	内田敦子	兼任
		生命科学	15	内田敦子	兼任
		生物学実習	15	内田敦子	兼任
		化学	15	相良順一	兼任
		化学実習	15	相良順一	兼任
		物理入門	15	粟生田健一	兼任
		物理入門実習	15	粟生田健一	兼任
		物理学	15	阿部慎司	兼任
		物理学実習	15	阿部慎司	兼任
		基礎数学	15	福田賢一	兼任
		情報処理演習	15	倉本尚美	兼任
		統計解析演習	15	倉本尚美	兼任
		データ解析法	15	岩井浩一	兼任
		実用英語 A・B	15	J.J.Drakos	兼任
		英語講読 I A・I B	15	瀧澤英子	兼任
		英語講読 II A	15	瀧澤英子	兼任
		英語講読 II B	15	瀧澤英子	兼任
		英語 (Speaker course I) A・B	60	N.D.Parry	兼任
		英語 (Speaker course II) A・B	30	N.D.Parry	兼任
		英語 (会話) A・B	30	J.J.Drakos	兼任

		仏語 A・B	30	小川亮彦	兼任
		独語 A・B	30	鈴木満	兼任
		中国語 A・B	30	金成姫	兼任
		健康科学	15	岩井浩一	兼担
		保健・スポーツ I・II	30	岩井浩一	兼担
		保健・スポーツ（トリムコース） I・II	30	岩井浩一	兼担
		スポーツ科学実習	15	岩井浩一	兼担
		スポーツ・コンディショニング理論	15	森利雄	兼任
		チームワーク入門実習	22.5	藤田好彦	兼担
		チームワーク演習	15	伊藤文香	兼担
		人間と生活	手話・点字演習	10	小林洋子（手話）
	5			宮城愛美（点字）	兼任
	グループワーク演習		15	佐藤純	兼担
	文章表現法		15	海山宏之	兼担
	哲学		15	海山宏之	兼担
	心理学		15	佐藤純	兼担
	教育学		15	生越達	兼担
	教育心理学		15	佐藤純	兼担
	臨床人間学シミュレーション		15	佐藤純	兼担
	社会の理解	社会学	15	才津芳昭	兼担
		経済学	15	平沢照雄	兼任
		憲法	15	間宮瑠美	兼任
		茨城学	15	海山宏之	兼担
		学問の時代を創った人々	7.5	才津芳昭	兼担
		社会学から読む医療	7.5	才津芳昭	兼担
		社会の病理	7.5	周藤真也	兼任
		バイオエシックス	7.5	海山宏之	兼担
		思想と宗教	7.5	海山宏之	兼担
		法と医療	7.5	間宮瑠美	兼任
	専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造	15	馬場健
人体の機能			15	角友起 他	兼担
人体の機能実習			22.5	角友起 他	兼担
人体の構造実習			30	馬場健	兼担

		代謝生化学	7.5	相良順一	兼任
		生涯人間発達 I	7.5	中山智博 他	兼任
		生涯人間発達 II	7.5	中山智博 他	兼任
		セクシャリティと健康	7.5	加納尚美 他	兼任
		基礎運動学（作業療法）	22.5	木口尚人	専任
		運動学（作業療法）	22.5	木口尚人	専任
		臨床栄養学	7.5	坂本香織	兼任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	7.5	田口典子	兼任
		臨床心理	15	山川百合子	兼任
		病原微生物と免疫	22.5	桜井直美	兼任
		健康障害の成り立ち I	7.5	馬場健	兼任
		精神障害と対応	15	山川百合子 他	兼任
		筋骨格障害と対応	15	六崎裕高 他	兼任
		内部障害と対応	15	河野豊 他	兼任
		神経障害と対応	15	河野豊 他	兼任
		小児期障害と対応	15	中山智博 他	兼任
		老年期障害と対応	7.5	河野豊 他	兼任
		衛生・公衆衛生学	15	桜井直美	兼任
		医科学総合科目 I	7.5	角友起 他	兼任
		医科学総合科目 II	7.5	田口典子 他	兼任
		放射線医学概論	15	石森佳幸	兼任
		環境と放射線	15	布施拓	兼任
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念	言語病理	15	宇野彰
	リハビリテーション概論		7.5	河野豊 他	兼任
	保健医療福祉論		15	堀田和司 他	専任
	地域リハビリテーション		7.5	河野豊 他	兼任
	医療とボランティア活動		15	山口忍 他	兼任
	作業科学		15	伊藤文香	専任
	国際保健医療活動		7.5	加納尚美	兼任
	障害者スポーツ		7.5	六崎裕高 他	兼任
	国際多職種協働実習 I		22.5	加納尚美	兼任
	国際多職種協働実習 II		45	白石英樹	専任
	地域多職種協働実習		22.5	山口忍 他	兼任
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	齋藤さわ子	専任
		作業科学演習	15	真田育依	専任
		作業療法理論	15	齋藤さわ子	専任

		多職種協働演習	15	藤岡寛 他	兼任
		基礎作業療法学演習（集団・交流系）	15	真田育依	専任
		基礎作業療法学演習（製作系）	15	佐々木剛	専任
		音楽活動演習	15	郡司正樹	兼任
		学生研究Ⅰ	30	大島隆一郎 他	専任
		学生研究Ⅱ	30	石井大典 他	専任
		作業療法学総括演習	15	木口尚人 他	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	7.5	大島隆一郎	専任
		リハビリテーション管理学	7.5	浅川育世 他	兼任
	作業療法評価学	作業療法評価学演習（身体障害）	30	若山修一	専任
		作業療法評価学演習（精神障害）	15	佐々木剛	専任
		作業療法評価学演習（小児期・高齢期障害）	15	藤田好彦	専任
		日常生活活動分析学	15	木口尚人	専任
		生活環境評価学	7.5	真田育依	専任
		作業療法評価学演習（高次脳機能障害）	15	高崎友香	専任
		作業療法評価学演習（作業機能障害）	15	齋藤さわ子	専任
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学	30	白石英樹	専任
		身体障害作業療法治療学演習（中枢）	15	藤田好彦	専任
		身体障害作業療法治療学演習（整形）	15	唯根弘	専任
		身体障害作業療法治療学演習（義手・装具）	15	白石英樹	専任
		内部障害作業療法治療学	15	唯根弘	専任
		高次脳機能障害作業療法治療学	11.25	高崎友香	専任
		高齢期障害作業療法治療学	11.25	堀田和司	専任
		高齢期障害作業療法治療学演習	15	真田育依	専任
		精神障害作業療法治療学	15	佐々木剛	専任
		精神障害作業療法治療学演習	15	石井大典	専任
		小児期障害作業療法治療学	15	大島隆一郎	専任
		小児期障害作業療法治療学演習	15	中村勇	専任

		日常生活活動学演習	15	伊藤文香	専任
		小児臨床とイメージ論	7.5	中村勇	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学	15	若山修一	専任
		地域統合支援実習	45	若山修一 他	専任
		応用地域作業療法学	7.5	木口尚人	専任
	臨床実習	作業療法体験実習	22.5	石井大典 他	専任
		作業療法評価実習	90	中村勇 他	専任
		作業療法総合実習	360	若山修一 他	専任
		作業療法地域体験実習	22.5	藤田好彦 他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4

	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法関連施設における，作業療法士およびその他の専門職種の役割・業務の見学	1年後期	作業療法概論	1年前期
		基礎作業療法学演習 (集団・交流系)	1年前期
		作業科学	1年前期
通所・訪問リハビリテーションの見学	2年後期	作業療法概論	1年前期
		生活環境評価学	2年前期
		保健医療福祉論	2年前期
身体障害・精神障害・発達障害領域における作業療法の各種評価方法の見学と実践	3年後期	作業療法評価学演習（身体障害）	2年前期
		作業療法評価学演習（精神障害）	2年後期
		作業療法評価学演習(小児期・高齢期障害)	2年後期
		日常生活活動分析学	2年後期
		生活環境評価学	2年前期
		作業療法評価学演習（総論）	2年前期
		作業療法評価学演習（高次脳機能障害）	2年後期
身体障害・精神障害・発達障害領域における，作業療法の評価・治療・管理業務等の総合的な実践	4年前期	身体障害作業療法治療学	2年後期
		身体障害作業療法治療学演習（中枢）	3年前期
		身体障害作業療法治療学演習（整形）	3年前期
		身体障害作業療法治療学演習（義手・装具）	3年前期
		内部障害作業療法治療学	3年前期
		高次脳機能障害作業療法治療学	3年前期
		高齢期障害作業療法治療学	3年前期
		高齢期障害作業療法治療学演習	3年後期
		精神障害作業療法治療学	3年前期

		精神障害作業療法治療学演習	3年後期
		小児期障害作業療法治療学	3年前期
		小児期障害作業療法治療学演習	3年後期
		日常生活活動演習	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	桜井直美
組織の開催頻度	1年に一度

組織の取り組み内容	・学生による授業評価の分析データ（教学 IR センターの調査）をもとに、内部評価並びに改善案を検討する。
	・教育改善のための研修会や公開授業を実施し（SD・FD 委員会担当）、その結果をもとに内部評価並びに改善案を検討する。
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://www.ipu.ac.jp/health-care/occupational/）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	学務委員会
	委員構成等	学長、各学科・センター長、学生部長、カリキュラム部会長等の学務委員
	改善の仕組みの実際	各学科のコース・コーディネータによるシラバスチェックの後、学務委員によるシラバスチェックを行い、適宜修正を行っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください

シラバス操作手順書に沿った教員間のシラバスチェックに加え、学務委員によるシラバスチェック、学務委員会による審議を経ているほか、学生による授業満足度調査、教学マネジメントセンターによる授業分析などを実施し、内部質保証に努めている。